

第73号
昭和51年
3月20日
発行

発行所
日本赤十字
新労働組合連合会
(日赤新労)
東京都港区西久保
広町35(庚申ビル)
TEL.03-432-1089
発行責任者
佐藤一男

日赤新労

綱 領
1. 吾々の権利を守る。吾々の自由を尊重する。吾々の生活を向上させる。吾々の健康を維持する。吾々の進歩を促進する。吾々の任務を達成する。

定期大会盛大に開く



和歌山市加太国民休暇村「みやま荘」において挙行された第15回定期大会

新労 十五周年を迎えて

新たな道標への前進を

日赤新労は今年をもって、記念すべき十五周年を迎えることとなった。昭和三十六年九月、伊勢市において誕生以来、着実なる歩みを続け、ここに満十五年の道標に到達したのである。この過程はあくまで、われわれの運動を進める一里塚にすぎず、更に二十年、ないし三十年の道標に向って決意を新たに運動を進めていかななくてはならない。今や日赤新労は、良識ある健全なる組織体として、一般の認識するところとなったことは、われわれの深いよびとするところである。日赤新労は、この記念すべき大会を迎えるに際し、いやさかえを祝するため、初代執行委員長をはじめ、先輩諸氏を招待してよびを分かち合った。

新運動方針を決定

51年度予算等も全会一致

- はしがき
- 国際情勢と経済の動き
- 国内情勢と経済の動き
- 日赤の現状
- 福祉厚生の拡充
- 第六号議案
- 第七号議案
- 第八号議案
- 第九号議案

- 第一号議案
- 第二号議案
- 第三号議案
- 第四号議案
- 第五号議案

以上を原案どおり全会一致で承認。

昭和三十五年第一回の団体交渉が行われることになった。

昭和三十五年第一回の団体交渉が行われることになった。

昭和三十五年第一回の団体交渉が行われることになった。

スローガン

- 生活維持向上のための賃上げ
- 組織の強化・拡大
- 時間短縮と週休2日制の実現
- 天下り人事の排斥
- 婦人活動の強化
- 老後保障の充実
- 福祉厚生の新設
- 保養所の新設

第七十六章に、顧問、相談役を置くことを決定した。

前本部副執行委員長宮野政夫氏を相談役に委嘱した。

76春闘を頑張ろう

組合規約の一部を改正

第五十六条 本会に顧問一名並びに相談役若干名を必要により置くことができる。

二、顧問並びに相談役は大会または中央委員会の承認を得て執行委員長が委嘱するものとする。ただし、相談役は組合員でなければならない。

三、顧問並びに相談役の任期は一年とする。

四、顧問並びに相談役は執行委員長の要請により会議に出席し諮問に応ずるものとする。

大会議事日程

- 議長 竜 忠亮(名)日赤
- 副議長 三上敏夫(大津日赤)
- 書記 池田英朗(岡山日赤)
- 役員監査委員 市渡賢一(盛岡日赤)、狩野喜安(前橋日赤)、北川正雄(大津日赤)、三上敏夫(大津日赤)、杉野喜八郎(三原日赤)、龍 延宏(福岡日赤)、選挙管理委員 岡 義郎(石巻日赤)

委員長挨拶

五十一年春闘は、これまでの「前年プラスアルファ」のパターンが崩れたので、本年は大幅賃上げの要求を引くため、生活費を基準に、いずれも昨年より低い要求額をきめるという、地道な方向に戦術転換すると共に、「昨年は物価抑制のために賃金は抑えられた」ということから、一ケタの賃上げが限度、無理に二ケタを主張しては逆効果を回復させる。

団結をかためて

二ケタ賃上げを

不況を背景に、日経連をはじめ「企業は支払い能力」向もある。労働側においては、絶対賃上げをすれば倒産が首切らばならない。

また政府は一ケタ台を考えているので、人事院においても一〇%以下を勧告するものと思われる。

以上のような情勢から見ると日赤は公務員体系を採っているため、一ケタ台の公算が強い。

従ってわれわれ日赤新労は、二ケタ台の賃上げを勝ち取るためには、強固な団結のもと、あらゆる手段を用い、強力なる闘争を展開しなければならぬ。

大会宣言

日赤新勞第十五回定期大会を二月二十二日より、二十四日まで三日間に亘り、和歌山市加太国民休暇村「みやま荘」において開催した。

われわれは昭和五十一年度運動方針として、生活維持向上のための質上げ、組織の強化拡大、老後保障の充実等八項目のスローガンのもと、全組合員の力を結集し、新勞理念を基調とした、揺がざる意志と、団結のもとに強固なる意志と行動により力強く前進することを誓います。

右、和歌山大会宣言とする

昭和五十一年二月二十四日

日赤新勞第十五回定期大会



大会宣言を朗読する大田原日赤の二瓶初美さん

51年度の 新執行部



執行委員
等々力 重信
(愛知県赤十字血液センター)



執行委員
高橋 利行
(福島赤十字病院)



執行委員
野沢 リセ
(八戸赤十字病院)



会計監査
大向 広治
(八戸赤十字病院)



会計監査
瀬山 治秀
(福岡県支部)



相談役
宮野 政夫
(新潟県赤十字血液センター)



中央執行委員長
川出 富治
(名古屋第一赤十字病院)



副執行委員長
青山 圭一
(岡山赤十字病院)



副執行委員長
福永 貞雄
(鳥取赤十字病院)



書記長
佐藤 一男
(宮城県支部)



会計
仙波 紀親
(浜松赤十字病院)

新役員 の抱負

書記長

佐藤 一男

さる四十七年四月十六日から十八日まで、岡山市において開催された新勞第十一回定期大会において本部役員(会計)を引き受けて以来四力年間、何ら成すところなく過して参りました。このたびはからずも書記長という大役をお引き受けることになりましたが、私にとつては、とうてい器ではないという考えから躊躇した次第でありました。

しかしながら、静かに顧みられた時、昭和三十六年新勞結成以来、その傘下単組の一員として新勞の綱領を体し、先輩諸兄の指導を受けて一貫して組合活動に参加してきたことを思い、更に新勞の現状を考えた場合、もともと組織の拡大強化を図らなければならぬ、新勞を何とかして前進させなければならぬという思いが私の脳裡をかすめたのであります。そして乞われれば、こ

この大役を引き受けた以上は、今後新勞の三大綱領の強力な実践を期するため、微力を尽さなければならぬと覚悟を新たにすると共に、その責任の重大さに身の引締まるのを覚えます。

今や組合活動も従来のようないわゆる高度経済成長期にあつた時代の運動ではその目的を果たすことは至難であることが予想され、現に著々進められてい

る総評あるいは同盟等の七六春闘基本構想等示みるにつけても、更にはまた、経団連等財界経営者側の脅威に対する威圧的な発言、特に政府の全般的な経済見直しについての言明等もみても、また、これらの労働者側にとっては不利な条件をバックにして、厳しい態度で臨むであろう日赤本社との対組合交渉もこのことから推測され、我われ新勞が基本としておる経済競争の前に、こうした悪条件が大きく立

ちぶさがってくることは火を見るよりも明らかであります。我われ新勞としてはこうした現情を正確に把握しながら、今後闘争の中でこのような厚い壁を打破してゆかなければなりません。

調査部長

青山 圭一

日赤新勞第十五回定期大会において副執行委員長を兼ねておられる青山圭一様は、調査部長を担当することになりましたが、何分自分の能力と時間的な問題から、先輩野田氏のようなことはおぼつかず、何が出来るのか困惑している次第であり、皆様のご指導とご鞭撻をお願いします。

教宣活動は、いままでもなく、組合にとって欠くことの出ない非常に重要なことである。組織の強化、拡大等に影響するところが大いだが、平常は諸般の事情からよく承知しながらも、なほおぼろしいが、

調査部長 福永貞雄

調査部長 福永貞雄

調査部長 福永貞雄

努力次第では今後担当組織の充実に努めるものと考えられる。過去四力年間、組織部の副部長としてこの問題に關係してきて考えられることは、先づ未組織施設に対するオルグを重点的かつ積極的に行うべきであると痛感しておる。しかしながら、執行部だけの力ではこの問題は効果的な成果を期待することは出来ず、各ブロックにおいて、そのブロック内の情勢をよく把握し、

本部役員を去るに当たって

元副執行委員長 宮野政夫

日赤新勞は結成から十五年を迎えたわけですが、私は昭和四十四年の「第八回定期大会」に本部執行委員に選出されてから今まで、「書記長」「副執行委員長」を経験し、またその間の学習会、幹部研修会等を開き、自分なりに新勞のためにたてばと思ひ、微力ながら努めてきたつもりですが、今更には見ると、はたして、なにをして来たのだろうかと思われてなりません。ただ、今までやってこれたのは、皆さんの温かいお力添えがあったからだと思います。感謝いたします。

組織部長 佐藤一男

組織部長 佐藤一男

組織部長 佐藤一男

球部の最高殊勲選手となった。このようなバイタリティーな彼を、新勞の役員に迎えたことは心強い限りでありたいと思つておる。私が期待されることである。私もいろいろの事情のため、今回本部役員より身を引くことになりましたが、赤十字として数々の問題をかかえており、特にまだ歴史の浅い血液センターにおいては大変なことと思われまふ。また、昨年から石油ショック以来、日本の経済状況は厳しくなり、日赤新勞の基本的な活動目標である経済闘争は今まで以上に組合員の一一致団結の下、強力なる運動を展開していかなければならない。そのために教宣活動を活発にし、組織力を増大し、単組内はもちろ

新役員のプロファイル

執行委員 高橋利行

現在、福島日赤庶務課に勤務中。職八年、なお単組書記長として活躍中である。仕事はもちろ論、スポーツも万能、陸上で県新を感懐いたしております。七年間の長い間、多くの

執行委員 高橋利行

執行委員 高橋利行

執行委員 高橋利行